

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1978号 2009年07月06日(月)

## 《 weak job market 》

先週の市場で目立ったのは、「アメリカ経済の弱さの改めての顕現化」と、それもあっての「ニューヨーク株式市場の調整局面持続」でした。

アメリカ経済の弱さは典型的に雇用統計の弱さに表れた。非農業部門の就業者数の減少幅46万7000人は予想を10万人以上も上回る多さだったし、5月統計に見ることが出来た「減少ペースの鈍化傾向」に疑問符が付いた。GMなどが工場閉鎖を進める中での製造業部門での雇用減少はいたしかたないが、筆者が注目したのはサービス部門や公共投資が予算執行され始めた建設部門でも、大きく雇用が減少したこと。サービス産業では10万人を超える雇用減少が、建設部門でも8万人近い雇用が失われた。加えてアメリカではカリフォルニア州などを中心に、地方自治体の財政事情の悪化が伝えられ、これが消費支出を抑制する危険性が指摘されている。

もっとも「雇用の問題」は、一人アメリカだけが抱える問題ではない。実にグローバルな問題である。日本でも直近統計である5月統計で有効求人倍率が過去最低の0.44になり、失業率も5.2%に上昇した。9人の人が職を求めても職があるのは4人だけという厳しい状況。先進国では欧州も若年層を中心に厳しい。途上国でも中国などでは民工の2000万人が失業状態にあると言われる。もともと雇用統計は遅行指標だが、それにしても今後の世界経済が抱えた一番大きな問題は「雇用」になるだろう。

「失業の問題」「より多くの人にどうやって雇用を与えるのか」は今週のラクイラ・サミットでも大きな議題になるだろう。雇用の問題は、市場の展開にも大きな影響を与える。なぜなら、多くの人に雇用を保証できなければ、先行きの所得に大きな疑問符が付くと言うことであり、これは景気の持続性が担保されないと言うことを意味する。「底入れ」はしたと判断される世界の景気だが、最後は消費者の消費意欲が頼りだけに世界的な雇用問題の顕現化は大きな懸念材料だ。サミットとそれに続くG20の会合でどのような方針が出されるのか注目される。

景気の持続性への疑念が台頭すればするほど、「株価の先行き」に対する不安感が台頭し、外国為替市場では円相場が安値追い出来ない環境になる可能性がある。世界的な金融緩和が株価の下値を支えていて、今のところ大きく崩れる危険性はないが、日本で言えば1万円を窺う度に持続に失敗している事実は、「市場をもう一段押し上げる力」に市場が欠けることを示している。

外国為替市場でも、円安を希求する力は依然として強い。今の日本の資金を入れて積極的メリットがあると判断する向きは少ないだろう。金利は低く、株価も頭打ち気味で、債券相場に崩れの危険性がある。しかし、アメリカ経済に強さが戻っておらず、従って資源価格にもやや頭打ちの可能性はあるなかでは、「では買える通貨は何か」と考えたときにはあまり浮かぶ通貨はない。こういうときには円が強含むのはここ1年くらいの市場の常である。

ラクイラ・サミットに対する市場の関心は高くない。落とし処が見えているからだ。景気については「失速のないように各国が協調しながらも独自に景気対策を続ける」が基本であって、「出口戦略」に付いては政治家である各国のトップが財務相会合以上に踏み込めるとは考えられない。温暖化対策は以前として各国の足並みが揃っておらず、途上国と先進国の歩調も大きく違っている。

むしろ市場の関心は、途上国がそれぞれどのような景気追加刺激策を打ち出すか、打ち出さないのかにあると思われる。

### 《 watch young leaders 》

今週の経済指標では、米ISMの非製造業景況指数などがアメリカの景況を見る上で重要なポイントになろう。米7月ミシガン大学消費者信頼感指数(速報)も関心を集めるかも知れない。サミットは死に体の首脳が何人もいる会合となるが、問題はむしろG8とその後に続く途上国・先進国の合同会合の繋がり具合だろう。各国首脳の年齢を見ると、メドベージェフが43歳と断トツで若く、次がオバマ大統領の47歳。58歳の英ブラウン首相から上の麻生首相、主催者のベルルスコーニ首相は大きな問題を抱えている。まとまりのあるサミットにはならない気がする。

今週の主な予定は以下の通り。

7月6日(月)	5月景気動向指数(速報) 米6月ISM非製造業景況指数 米オバマ大統領がロシア訪問(~8日)
7月7日(火)	IMFが最新の「世界経済見通し」公表予定 豪金融政策決定会合
7月8日(水)	5月機械受注 6月景気ウォッチャー調査 英中銀金融政策委員会(~9日) サミット(主要国首脳会議)(~10日、イタリア・マッダレーナ島)
7月9日(木)	米5月卸売物価 米6月チェーンストア売上高 デューク米FRB理事スピーチ(連邦預金保険公社)

(FDIC) 主催の会合で)  
中国 4~6 月期景況感指数  
中国 4~6 月期企業信頼感指数  
ブラジル休場  
7月10日(金) 6月企業物価指数  
米5月貿易収支  
米7月ミシガン大学消費者信頼感指数(速報)  
米政府による新生 GM への優良資産売却期限

### 《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。日曜日は亡くなった母親の3回忌で諏訪に居ましたが、相変わらず湿度の高い週末でした。今週も依然として湿度は高そうです。

ところで先週は「いつも電源を入れた状態で使っているラップトップの電池」について調べたことがあったので、それをお伝えしましょう。皆さんもお使いでしょうから。私の身に何が起きたかということ、実は家で一番使っている大きめのラップトップの電池に問題が起きたのです。リチウムイオン電池で、持ち運ぶことは全くないのですがずっと電池をはめて使っていた。停電(日本ではないのですが)の時に直ちにコンピューターがダウンしなくて良いだろう、と思って。

しかし買ってからこの方ずっと充電状態にも関わらず、最近電池アラームが点滅したりして「おかしいな」と思っていたのです。そのうち「電池に問題あるからコンピューターを休止状態にする」旨のメッセージが出た。「おかしいな」という感じ。だってずっと充電中の状態にあるわけで、電池の電気がなくなるはずがない。

そこで、「電池なんていらない。外そう」と思ったのです。外したら「休止状態」が解除されて、直ちにコンピューターは復活、しかも「このマシンは古いから仕方がないか」と思っていた全体の遅さが解消して、実にサクサクと動くようになった。こちとら狐に鼻をつままれたようなものです。

そこでいつも電源を入れた状態で使っているラップトップの電池は、実は「電池は外しておいた方が良いのか」、という問題意識をもってコンピューターに詳しい方々にネット上で聞いたのです。

そしたら実に多くの方々からメールを頂いた。私の問題意識はそれほど的外れではなかったようで、電源のあるところではラップトップの電池は外した方が多いケースが多いし、トラブルを抱えた電池を使っていると PC が遅くなる理由も「なるほど」と分かりました。多くの方からのメールの中で目から鱗の話は「家電量販店の展示ラップトップ PC は全て電池を外してある」というものでした。いや以前から気付いてはいましたが、「盗難防止なんだろうか」と思っていました。

メールを頂いたある方が量販店の方に聞いたというのです。「なぜ電池を外してあるのか」と。そしたら、「電池は充電しながら放電すると早く消耗するから」との量販店の方の答えだったそうです。この点については多くの方からメールで指摘して頂きました。例えば、「ほとんど持ち歩かないで AC アダプターを繋ぎっぱなしにして使っている場合には、バッテリーは外しておくのがマニアの間では常識です。家電量販店の売り場に並べてあるノートパソコンも大抵はバッテリーを外してありますよ。なぜ外しておくのかというと、付けたまま AC アダプターを繋ぎっぱなしにしておく、常に充電・放電を繰り返すため、バッテリーが非常に早く劣化するためなんです。」と。

ただし、PC からバッテリーを外したままの状態がお勧めかどうかについては、「PC 稼働時の停電等が起きた場合、PC への供給源が無くなるため作成中のデータが消えてしまうこともあります。またバッテリーを外すと、本体側とバッテリーを接続している端子が剥き出しになり、埃が付着するためお勧めできません。」というご意見があったことも記しておきます。PC のバッテリーは本来劣化したら交換するもの、という意見も多かった。つまり消耗品、という考え方です。

また PC が電池を外したらサクサク動くようになった件に関しては、『「故障した電池を使うと Windows が遅くなる」というのは十分ありえます。Windows には ACPI と呼ばれる規格に対応した電源制御機能があります。搭載された電池の残り容量を調べるのも、この機能の中の一つです。(つまり Windows にとっての「電源」は、ハードウェアが必要とする電力の供給元だけではなく、ソフトウェアからアクセスできる制御機器の一つです)。これは推測ですが、故障電池が原因で、何らかの機能がリトライを繰り返すようなことがあると、その分どうしても CPU を使うことになり、Windows 全体が遅くなってしまいます。その場合「サクサクと動くようになった」ほうが、お使いの PC の本来の性能だった、ということになるかと思えます』というのが納得出来るものでした。私の場合は実際にバッテリーを外したら実にサクサクと動いたのですから、こういう対応を決めました。

今の机の上にデンと座っている A4 型以上の大型ラップトップは決して家の外に持ち出さない種類のものであり、また 5 年以上も使っていて新しい OS としてのセブンが出たら買い換えようと思っているので、接続端子が少々悪くなくてもかまわないなどの理由で、「サクサク動いてくれる、外したままの状態での使用」という方針を決めました。持ち歩いている PC は、自然と電池の使い切り、満充電を繰り返して理想的な状態なので、基本的には今のまま、ということです。

皆様のご参考に。それでは良い一週間をお過ごし下さい。

*《当「ニュース」は住信基礎研究所首席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたもの*

ではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》